第二章　第四十四軍の狀況（附圖參照）

第一節　第四十四軍の編成より蘇聯參戰迄の狀況

一、要旨

獨軍降伏沖繩玉碎等情勢の急變に伴ひ當時關東軍最大の弱點にして空白地帶たりし西方外蒙古方面に對し新に一軍を編成して南滿要衝に對する直接の脅威を除去する事は愈々其の緊急の度を增加せり。

茲に於てペスト流行地帶にして且砂漠地帶たる興安南省及興安西省地域に從來專ら中南滿地域の防衛に任じありし關東防衛軍司令部を改編せる第四十四軍司令部及阿爾山地區に在りし第百七師團並新に北支方面より轉用せる二箇師團を配置することゝなれり。

此の配備變更に伴ひ從來關東防衛軍の任じありし中南滿地帶の防衛及熱河省に於ける共產軍討伐の任務は齊々哈爾より奉天に移駐せる第三方面軍に於て繼承することゝなりたり。

第四十四軍を配置せらるゝ迄に西方正面に在りし兵力は阿爾山附近

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の第百七師團熱河省に共產匪を討伐中なりし第百八師團の二師團の外滿洲國軍が興安附近に約一箇師、洮南及通遼附近に各約一箇旅一何れも蒙古軍一程度配置せられありしに過ぎずして作戰準備、防衛態勢の整備等は殆んど白紙より出發せりと言ふも過言にあらず。

第四十四軍の主力たる第六十三師團及第百十七師團は何れも北支にありて討伐警備に任じありし部隊にして其の編制も歩兵二箇旅團(一箇旅團四大隊一砲兵隊、工兵隊、輜重隊といふ特別の編制にして火砲の如きも兩師團併せて山砲十八門と言ふ狀態なり。

第六十三師團は六月中旬に第百十七師團(歩兵の半部を除く)は六月下旬に夫々北支よりの移駐を完了し爾后環境の不利、資材の不足滿東軍最後の動員の爲の幹部及兵員の轉出等多くの困難を克服して作戰準備及訓練に努力せるも其の成果は八月初旬に於ては尙極めて不十分なるを免れず。

軍直轄部隊中戰車旅團及砲兵諸部隊の大部は七月上旬及下旬に編成

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

せられ或は移駐せるものにして裝備の不足、訓練の不十分等何れも其の戰力は大なる期待を掛け得さるものあり。

兵站諸機關も亦七月中旬頃海拉爾、齊々哈爾より軍作戰地域内に移駐せるものにして漸く其の業務緒に就かんとして開戰となりたり。之を要するに第四十四軍は編成以來二箇月にして開戰となり其の任務達成の困難なる推して知るべきなり。

二、第四十四軍司令部の編成經過及戰鬪序列の下令

イ、關東防衛軍司令部は支那方面よりする米機の鞍山大連等に對する爆擊により關東軍の兵站基地たる南滿の防衛漸く重大化せるを以て昭和十九年九月新京より奉天に移動し專ら南滿各重要都市の防空、治安維持及熱河省の八路軍討伐作戰に從事しありしが、昭和二十年四月蘇聯參戰の機漸く近づくに拘はらず西方正面に於ては外蒙方面よりの攻擊に對し僅かに赤峰及林西に夫々第百八師團の一箇大隊及一中隊を配置せらるゝのみにして滿洲の動搖たる連京

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

線は直接敵の脅威にさらされある狀態なりしを以て關東防衛軍司令官は任務達成上此の正面强化の要を痛感し關東軍總司令官に意見を具申するところありたり。

2. 關東軍に於ても軍局最后の段階に立至りたる時機に於て總軍團期持久態勢に移るに決し「三號演習」を令し新態勢に移行せんとし五月十日松村參謀副長及宮田參謀（竹田宮中佐）來奉し「興安附近の一箇師團に支那方面より移動し來る約二師團を加へ新に一軍を編成して西方に對する態勢を整ふる筈にして之れが軍司令部には關東防衛軍司令部を充當し關東防衛軍司令部の後には齊々哈爾より第三方面軍司令部を移駐任務を繼承せしむる案にて目下大本營と交渉中」なる旨を述べ更に三號演習の構想を傳達す。

3. 次で五月二十日に至り右案を實行するに決定せる旨連絡あり。更に翌二十一日には第三方面軍司令部より防衛軍司令部の廳舍官舍等の視察に來り二十五日には防衛軍は移動せよとの要求あり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍は此れより先關東軍參謀副長の内示に基き參謀長等を派遣し軍司令部、兵團配置等を偵察せしめたる結果鄭家屯に軍司令部を置き第六十三師團は司令部を通遼に隷下部隊を鄭通線沿線に、第百十七師團は洮南に司令部を隷下諸部隊を四洮線沿線に配置するを適當と認め關東軍總司令官に意見を具申し認可せられたり。

4. 五月二十七日軍司令部は一部を鄭家屯に先發せしめ二十九日來奉せる第三方面軍司令官に關東防衛軍の任務を引繼ぎ、又地區防衛部隊、防空部隊及警備隊等は現態勢のまゝ第三方面軍司令官の指揮下に入らしめたり。

五月三十日軍司令部主力は奉天出發六月一日鄭家屯に移駐を了し直ちに業務を開始す。

5 六月五日新に第四十四軍駐蒙序列を命ぜられ、同日新軍司令部の編成を完結し且第三方面軍司令官の隷下に入り新駐蒙序列に基く統帥を發動す。

0558

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十四軍戰鬪序列左の如し。

第四十四軍司令官　陸軍中將　本郷義夫

第四十四軍司令部

第六十三師團

第百七師團

第百十七師團

獨立戰車第九旅團（30/7編成、增加）

獨立速射砲第二十九大隊

第二遊擊隊（30/7增加）

野戰重砲兵第十七聯隊（甲）

野戰重砲兵第三十聯隊（乙）（30/7編成增加）

獨立重砲兵第六中隊（〃）

獨立野砲兵第十四大隊〃

電信第三十一聯隊

0559

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第六百五中隊
同　第六百七中隊
同　第六百十九中隊（30/7増加）
同　第六百四十三中隊（〃）
同　第六百四十四中隊（〃）
同　第六百四十八中隊（〃）
兵站部隊
特設陸上勤務第百二十七中隊
兵站勤務第七十五中隊
獨立自動車第百十二大隊（30/7編成、増加）
同　第二百七十七中隊（30/7補給廠に轉屬）
獨立輜重兵第七十三中隊
患者輸送第五十五小隊
建築勤務第四十中隊

0560

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同　第八十二中隊（30/7　三十軍に轉屬）
水上勤務第四十中隊
建築勤務第八十二中隊（30/7　三十軍に轉屬）
水上勤務第四十一中隊（〃　）
阿爾山陸軍病院
白城子陸軍病院
海拉爾第二陸軍病院
第十九野戰兵器廠(甲)（移動修理班一欠）
第十九野戰自動車廠(甲)
第十九野戰貨物廠(甲)（移動修理班一欠）

三、軍隊下部隊の配置

イ、第百七師團は主力を阿爾山地區に一部を五叉溝、杜伯斯附近に配置し齊々哈爾に捜索隊及輜重隊を殘置しありしが軍は長期持久の爲に其の主力を五叉溝附近既設陣地に後退せしむるを可なりと認

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

め驛東軍總司令部に意見を具申し認可を得て六月中旬同師團主力を五叉溝に移駐せしめ且既設陣地を一箇師團に適合する如く編成を指導す。尚齊々哈爾に殘留しありし搜索聯隊及輜重は之を五叉溝附近に集結せしむ。軍司令官は六月下旬第百七師團を初度巡視す。

2. 第六十三師團は六月上旬北支方面より逐次移駐し師團司令部及主力を通遼附近に一部を開魯及鄭家屯、鄭通線沿線に配置し約一週間を以て移駐を完了す。其の隸屬變更時期は六月十九日とす。七月上旬方面軍命令により歩兵一大隊を第百八師團長の指揮下に入れ熱河に於ける對八路軍作戰に從事せしむ。

3. 第百十七師團は北支に於て老河口作戰に從事中轉進命令を受領し敵の抵抗を排除しつゝ原駐地信陽附近に集結六月中旬滿洲に移駐を開始し師團司令部及主力を洮南附近に一部を以て白城子及四洮線沿線に配置し六月下旬移駐を完了す。其の隸屬轉移の時期は六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

月二十九日とす。但し歩兵四箇大隊は依然北支に殘留し作戰に從事中なりき。

第六十三師團及第百十七師團の配置は主として作戰上の必要並に交通補給の關係を考慮し豫め軍に於て決定せるものなり

4. 軍直部隊

電信第三十一聯隊は中支より轉用せられ六月中旬八面城に移駐す。

野戰重砲兵第十七聯隊は第三軍隷下より軍の隷下に入らしめられ七月上旬開原に移駐す。

獨立速射砲第二十九大隊は七月上旬洮南に移駐す。

第二遊擊隊は從來通り興安に位置す。

5. 兵站諸部隊

關東防衛軍は從來より補給諸廠を有せず且僅かに野戰道路隊及若干の輸送部隊、陸軍病院を有せるに過ぎず。新戰鬪序列に於ける兵站諸部隊は殆んど他の兵團より轉屬せられたるものなり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十九野戰補給諸廠

第四軍の隷下を脱し原駐地たる海拉爾、齊々哈爾地區より野戰兵器廠及野戰自動車廠は四平附近に本廠を、野戰貨物廠は鄭家屯に本廠を、其の支廠を五叉溝、洮南、通遼附近に夫々七月中旬迄に配置し補給に從事す。

第四十七野戰道路隊は三月以來通遼に駐屯し、通遼—開魯間の道路の整備に任じあり。輸送部隊たる獨立輜重兵第七十三中隊は七月初旬鄭家屯附近に移駐す。

衛生部隊は七月中旬迄に原駐地海拉爾より移駐し各兵團駐屯地に配置して患者收療態勢を確立す。

兵站勤務隊は鄭家屯に七月中旬移駐す。

四、作戰準備

イ、作戰計畫

六月五日第四千四軍司令部の編成は完結を見たるも上級司令部よ

0564

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

りの作戦計畫は示されず。軍は取敢へず新に到着する第六十七師團及第百十七師團の諸部隊も白城子、洮南、鄭家屯、通遼附近鐵道沿線に配置し爾后の狀況の變化に應ずることゝせり

六月十四日軍司令官關東軍總司令部に集合せしめられたる際作戦計畫案の内示あり。

茲に於て軍は豫て作成しありし作戦計畫腹案を具体化するに努め七月上旬兵團長會同を鄭家屯軍司令部に於て實施し其の席上之を内示す。

軍作戦計畫の骨子左の如し。

一、方針　第百七師團をして五叉溝及興安附近の既設陣地を確保せしめ爾餘の兵團を以て四洮線及鄭通線に沿ふ交通の要衝を確保し之を據點として敵の前進を拒止す

二、指導要領の大綱

イ、交通の要衝に陣地を編成し之を據點として其の周邊半徑約二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十粁の地域に於て遊擊戰を實施し敵此の據點を迂回せば其の後方を攻擊す

2. 軍直砲兵は第六十三師團及第百十七師團に分屬して白城子、洮南、鄭家屯、通遼等の據點の骨幹たらしむ

3. 戰車旅團は一部步兵と共に白城子飛行場附近に移動トーチカ式に配置し敵の落下傘部隊に對せしむ

4. 五叉溝の既設陣地は兵力に適合する如く改築す。

5. 興安附近に於て敵の迂回を阻止する如く陣地を準備す

2. 防衛

軍は鄭家屯移駐と共に第百七師團と交代して西部防衛司令部となり興安省、同南省、龍江省泰來縣、四平省遼源縣を其の防衛管區とす。防衛管區は滿洲國行政區劃と一致し七月中旬一部熱河省と興安西省との境界に於て若干の行政區劃を變更して防衛管區と一致せしむ。又作戰上の考慮に基き第百七師團第百十七師團第六

0566

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十三師團を各々地區防衛擔任部隊とし兵團作戰地域と防衛地域を一致せしめたり。

七月中旬等三方面軍司令部より防衛計畫の大綱を示され之に基き軍の防衛計畫を作成し八月四日參謀長合同の際麾下兵團に示達せり。但し必要なる事項は六月上旬以降逐次指示しありたり。

西部防衛地區防衛の主眼は、作戰計畫に基き軍防衛地區内に强固なる遊擊據點を設置すると共に適時適切なる情報の收集に遺憾なからしむるにあり。之れが爲各街、村は夫々其の周邊及部落内要點に豪其の他の障碍物を設けて敵の攻擊に對抗せしめんとし特に民心の把握に留意する如く指導せるも、實際には何等見るべきものなく全般戰況の不利及物資の供出人員徵用の過度により民心は完全に離反し遊擊據點の構成等は机上の空論に過ぎざる狀態なりき。

從來滿洲防衛の重點は南滿に指向せられありて西部地區は單に支

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

那方面よりする南滿及新京方面に對する防空の爲の補助的役割をなしあるに過ぎず。從つて防空態勢は待機狀態にありたるも通信網の整備は全く不良なり。軍は人口僅少廣漠たる地帶に於て現在配置せられある防空監視哨を戰時に於ける地上情報收集並に遊擊戰に利用せんが爲監視哨の配置變更及之に基く防空及警備用通信網の增强補修を計畫せるも資材不足の爲意の如く進捗せず。

軍は又開戰時に於ける敵側謀略の激化に備へ憲兵、鐵道警護隊及滿洲國軍等に對し主要交通線、動力源、建造物を掩護する爲兵力の配置警備計畫等の指導をなせり。

滿洲國行政機關就中軍防衛地區の大部を占むる興安總省の省公省の所在地は興安にして連絡上不便なるを以て六月中旬興安總省より連絡員として鄭家屯駐在參事官を派遣せしめたり。

防諜に關しては五月以降特に軍が西部地域に配置以來外蒙よりする武裝諜者の潛入活潑となりしを以て特に各兵團に防諜對策の徹

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

底を要求すると共に國境監視隊及國境警察隊に之れが發見逮捕に努めしめたり。

3. 新施設及築城、舊施設の處理

第四十四軍司令部は關東防衛軍の當時熱河省林西地區の國境陣地の維持增强、中南滿地域に於ける高射砲永久陣地の構築、軍司令部內防空指令所の構築、安東及旅大地區の對米作戰の爲の陣地構築等に任じありしが軍司令部の鄭家屯進出と共に此等の作業を第三方面軍に引繼ぐと共に新作戰地域に於ける築城に着手せり。然れども各兵團に於ては大縮尺の地圖なき狀況にして自ら測量を實施しつゝ陣地を構築する狀況なりき。

五叉溝附近の既設陣地は周圍八十粁もありて甚しく過大分散しあり。第百七師團は自ら師團の兵力に適合する如く改築に著手せるも同地區の諸作業は築城資材特に爆藥、穿岩機の不足に依り甚だしく困難にして開戰當時に於ける强度は野戰陣地程度なりき。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

爾餘の兵團正面は廣漠不毛の平原地帶にして而も築城資材の補給は皆無なりしを以て軍は白河線沿線白狼附近に於て森林を伐採し築城材料を補給せんとし七月下旬第四十七野戰道路隊の主力を派遣し且輸送の爲八月に入り第百十七師團の輜重一中隊を軍直轄とし同じく白狼に派遣せるが此の輜重部隊は輸送途中興安附近に於て蘇聯參戰となり原所屬に復歸し、野戰道路隊も亦原駐地に歸還せしめたり。

敵の迂回を考慮して關東軍は興安附近に關東軍築城隊及滿洲國軍をして築城を實施しつゝありしが殆んど其の緒に就きしばかりにして開戰となりたり。

軍の重視しありし遊擊戰の爲の諸施設も偵察の途上にあり軍戰鬪司令所も鄭家屯西南附近に偵察中開戰となりたり。

4 後方關係

第四十四軍の配置迄何等の準備なき地域に新に兵團の移駐を見且

0570

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一切の後方諸部隊を他兵團よりの轉屬に據らざるを得ざりし軍の兵站整備は特に輸送力の不足により多くの時間を空費し困難を極めたり。第十九野戰補給諸廠の軍轉入に際しては人事、資材の舊位置殘留に關し關東軍及其の原所屬たる第四軍との交渉に多大の時間と努力を費し、常續補給の爲の諸廠の展開は概ね順調に進捗せるも作戰計畫に基く軍需品の集積は其の緒に就かんとして開戰となりたり。新に移駐せる兵團及諸部隊の收容施設は越冬を顧慮する平戰兩用の準備を餘儀なくされたるも既設施設による收容力は所要の三分の一に滿たず。依つて主力は三角兵舎、幕舎に收容せるも、軍は滿人家屋の構築を準備し關係行政機關の協力に依り可成の資材を集積し勤勞奉公隊により之れが建造をなさんとし準備中なりき。

5. 交通

交通は專ら鐵道に賴り鐵道線を離れたる地域に於ては道路網の發

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通しあらざりし爲補給困難にして兵團の縱深配置は不可能なる狀況にあり。軍作戰地域内の鐵道は南北に走る平齊線（四洮線）及之に直交する白阿線並に大鄭線（鄭通線）にして一般道路は作戰遂路としての價値少く僅かに通遼―開魯間（八十六粁）のみは三月以來の整備に依り自動車道路として軍官民の利用する處となり。軍は補給路設定の爲幹線道路の整備を上司に具申し滿洲國交通部の擔任として先づ四平―鄭家屯―通遼道を次で鄭家屯―白城子道を整備する事に決定せるも之れが實施を見るに至らずして終る。

鐵道業務に關しては軍の管内にある鐵道は北部地域（在齊々哈爾）大鐵支部長に南部地區は在錦洲大鐵支部長の管轄に屬し極めて不利なりしを以て關東軍に軍管内に强力なる大陸鐵道支部を設置するか管區を變更するか何れかにされ度き旨意見具申せるも容れられず開戰後兵團の轉進に重大なる支障を生ずるに至れり。

0572

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

6. 通信

通信部隊は當初第百七師團正面に關東軍直轄の固定通信隊の微弱部隊ありしも軍の移駐に伴ひ器材人員を増強し次で六月中旬電信第三十一聯隊の轉入を得て軍内通信部隊は充實す。

有線通信は既設線を利用し軍司令部、關東軍總司令部、方面軍司令部間及軍内各兵團司令部との間は直通專用線とす。但し第百七師團と軍司令部間は白城子の軍交換を經由す。其の他滿鐵交換及電々交換に加入し副通信的に使用す。然れども既設線は何れも老朽しありて故障多く作戰上極めて不備なりしを以て關東軍に意見を具申して改築増強計畫を立案し滿洲電信電話株式會社をして先づ四平ー鄭家屯ー通遼ー開魯間を次で鄭家屯ー洮南ー白城子間の増強に着手し四平ー鄭家屯ー通遼間は殆んど完成の域にありたり。

尚電信電話株式會社の通信体系を軍の作戰（防衛）地域に適應する如く一部改組す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

廣大なる軍作戰地域に於て遊擊戰を實施する關係上無線の增加裝備は絶對に必要なりしを以て之れが實現方を關東軍に申請せるも資材不足の爲實現するに至らず作戰間極めて困難を感じたり。

7. 教育訓練

六月中旬軍は作戰計畫に適應する如く教育に關する指示を作成し隷下兵團參謀長會同の席上之を指示す。

軍教育の方針は遊擊戰に即應する訓練を徹底し對戰車肉迫攻擊の要領を完全に修得せしむるにあり。教育訓練計畫に於ては特に長期間に亘る整齊たる教育の實施は時局の進展に伴ひ實情に適せざるを以て短期間に目標を定め實戰即應の訓練を實施し如何なる事態の突發にも適應し得る如く概成し然る後之を補足向上する如く指導す。第百七師團の遊擊戰訓練は軍内中最も優秀なりしを以て第六十三師團及第百十七師團より要員を第百七師團に派遣して教育せり。尚第六十三師團及第百十七師團は何れも北支より轉進せ

0574

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

る兵團にして遊擊戰は既に實戰により体得しありて將兵共に十分なる自信を有しあり。

然れども對戰車戰闘訓練は十分とは言ひ難く、教育資材の不足に惱まされつゝも各兵團鋭意之れが訓練に邁進しあり。軍司令官、方面軍司令官等の巡視の際に於ても常に此の課目につき訓練を實施せしめて指導に努めたり。

遊擊戰訓練の爲七月中旬關東軍に於て機動旅團に實施せしめたる吉林演習は軍司令官及各兵團參謀長之を視察す。七月上旬編成せられたる部隊は以上の外特に團結の鞏化を圖り兵科本然の教育に徹底する如く指導せるも、兵器資材の不足と幹部の素質低下により其の成果見るべきものなりき。

8. 情報收集

七月上旬第三方面軍司令部より情報收集の計畫示達せられ軍は之に基き作戰計畫に適應する如く情報收集計畫を作成し八月

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四日蘇下兵團參謀長會同の際示達す。軍情報收集の主眼の第一は蘇聯の開戰時機看破に置き次で游擊戰實施の爲必要なる情報の收集に帰きたり。之れが爲第百七師團は主として國境監視哨により對外蒙情報を爾餘の兵團は各々地區内の游擊戰情報の收集を主とせしむ。軍としては外蒙狀況特にタムスク鐵道の改軌及延長、外蒙に於ける自動車輸送の狀況等敵の集中狀態を知らんと欲せるも對蘇刺戟を避くる爲軍自体による諜報の實施を嚴禁せられありしにより六月中旬新に軍の指揮下に入りし興安特務機關をして軍の希望する情報の入手に努めしめたり。

當時、蘇軍情の收集は殆んど關東軍總司令部自体に於て實施せられ方面軍以下は國境監視哨のみに依存して情報の收集に當りありしのみなり。又阿爾山地區國境には哈爾賓特務機關より派遣せられありし電話盜聽班ありて其の情報は軍司令部にも直接受領せり。興安特務機關は機關自体の秘密戰計畫を有しみどり工作と稱し軍

0576

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

管區内に據點を準備しありたり。

國境監視哨の情報は七月上旬より情勢の緊迫化に伴ひ監視隊より直接關東軍に報告する如く改めらる。

9. 兵要調査

軍は鄭家屯に移駐後作戰地域内の兵要調査極めて不完全なるを知り速かに之が完成を要するを認め、六月下旬各兵團主任者、特務機關關係者、滿洲國軍主任者を司令部に會同し各々に調査擔任地域及目的着眼を示し主として遊擊戰的見地よりする兵要調査に着手せしむ。之れが爲主要交通網、障碍地帶、住民地の狀態、民心等に重點を置き第一回の成果は七月中旬提出せられ軍に於て整理を完了し第二回目の調査班派遣を計畫中なりしも實施に至らず。七月下旬漸次情勢險惡となりしを以て外蒙及内蒙より興安嶺を越え滿内に侵入するに便なる主要道路の破壞を立案せるも之が實施の滿内民心に與ふる影響極めて甚大なるものあり且企圖の秘匿に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

も支障あるべきを考慮し其の時機を何時に選定すべきやにつき研定し得ず、蘇聯の開戰企圖極めて明瞭となる迄之れを延期するに決し遂に實施の機を失したり。

10. 國境警備

直接外蒙國境に接し居たるは第百七師團正面のみにして該兵團は散在せる國境警備部隊を逐次阿爾山地域に集結し、國境監視網も新情勢に適合する如く阿爾山より三國山に至る間に配置換えを實施せり。尚其の間隙補足の爲滿洲國國境警察隊を配備す。內蒙との國境地帶は滿洲國國境警察隊國境警備に任じありて逐次增強せられつゝありたり。

五、部隊の編成、變動

六月中旬頃より關東軍に於ては情勢變化に對應する爲根こそぎ動員を計畫し六月下旬より七月上旬に亘り動員を令せられ軍より新設兵團及部隊要員として兵員の約十分の一幹部の約三割弱を轉出しその

0578

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

充足は召集者を以てせられたるが特に各部隊とも幹部の素質低下及不足を來たし既設部隊の戰力は約三分二に低下す。

根こそぎ動員に於ける兵員の素質は滿洲國政府職員、警察官、特殊會社從事員等の内必要最少限を殘し應役員を最大限に召集したる關係上極めて不良にして又健康狀態甚に軍務に耐えざるものと認めらるゝ者以外は凡て入營せしむべき關東軍の指示に基き召集したるを以て其の素質の如何に低下しありしやを覗知し得べし。

軍に於て動員を管理せる部隊左の如し

獨立戰車第九旅團	編成完結	二〇年七月一日（四平）
獨立重砲兵第六中隊	編成完結	二〇、七、一〇（開原）
野戰重砲兵第三十聯隊乙	編成完結	二〇、七、一〇（開原）
第百七師團挺進大隊	同	右（五叉溝）

新動員部隊は何れも兵器被服の充足は極めて不十分にして戰車旅團に於ては車載MG不足し火砲彈藥は教育用彈藥を有せしのみにして野

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戰重砲兵聯隊及重砲兵中隊は全然火砲を充足せられざるまゝ開戰となる。關東軍よりは新設部隊の裝備の充足は大体十二月末と豫定せる旨示されありたり。

第三十軍の編成に伴ひ同軍の隷下に轉屬せる部隊は建築勤務第八十二中隊及水上勤務第四十一中隊なり（此等の部隊は何れも新京に在りて關東軍の指揮下にありし部隊なり）。

第百七師團の歩兵一大隊は遼陽教育隊に派遣中にして開戰と同時に原所屬に復歸せしめたるも輸送途中興安附近に於て敵と遭遇せり。

六、兵器資材の變動

第百七師團保有の速射砲は六月中旬增加裝備なる理由により約半數を引揚げられ且同師團砲兵聯隊の一部裝備改編に伴ふ彈藥並に本土への自動車用燃料の還送を實施するの外從來の補給諸廠の端末施設を作戰即應の態勢に變更せり

電信第三十一聯隊の兵器は完全に充足せられありしも關東軍に於て

0580

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp